

## 本調査の特徴

本調査は、乳幼児の生活の様子、保護者の子育てに関する意識と実態をとらえることを目的に実施している。Benesse教育研究開発センターでは、1995年と2000年にも同じ目的で調査を実施しており（当時の機関名称は、ベネッセ教育研究所）、経年での比較ができるよう配慮して今回の調査を設計した。

本調査の特徴は以下のようにまとめられる。

### 1. 時代による変化を把握することができる

本調査は、時系列での変化を把握することを目的として企画されている。質問項目は、時代の変化に応じた追加・削除はあるものの、ほぼ同一のものを使用している。なお、2000年調査は、調査地域を、また2005年調査は、調査対象となる子どもの年齢を他年の調査より広くとっている。そのため、経年での変化をみる際は、調査地域と調査対象をそろえて比較した。

### 2. 乳幼児の年齢による違いを把握することができる

今回の調査は0歳6か月から6歳就学前の乳幼児をもつ保護者を対象としており、乳幼児の生活の様子や保護者の子育てに関する意識と実態が、乳幼児の年齢によって、どのような違いがあるのかをとらえることができる。

### 3. 乳幼児の生活と保護者の子育てに関する幅広い内容を聞いている

乳幼児の基本的な生活時間、メディアとの接触、習い事、遊びなど、乳幼児の生活に関する幅広い内容を調べている。また、乳幼児の生活にとどまらず、保護者の子育てに関する意識と実態についても広範囲に聞いている。

### 4. 時代の変化に合わせて、新規項目を追加している

時代の変化を考慮して、乳幼児の生活と保護者の子育てに関する意識と実態をより具体的にとらえるために、保護者の子育て観や子どもの将来への期待などの新規項目を追加した。

## 調査概要

### 1. 調査テーマ

乳幼児の生活の様子、保護者の子育てに関する意識と実態

### 2. 調査方法

郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）

### 3. 調査時期

第1回調査 1995年2月

第2回調査 2000年2月

第3回調査 2005年3月

### 4. 調査対象

#### 第1回（95年調査）

首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）の1歳6か月～6歳就学前の幼児をもつ保護者1,692名（配布数3,020通、回収率56.0%）

#### 第2回（00年調査）

首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）、および地方都市（富山市、大分市）の1歳6か月～6歳就学前の幼児をもつ保護者3,270名（配布数5,600通、回収率58.4%）

\*経年での比較を行うために、地方都市の回答を分析から除外している。

#### 第3回（05年調査）

首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）の0歳6か月～6歳就学前の乳幼児をもつ保護者2,980名（配布数7,200通、回収率41.4%）

\*経年での比較を行う際は、0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ保護者の回答を分析から除外している。

### 5. 調査項目

子どもの基本的な生活時間／習い事／メディアとのかかわり／遊び／幼児の発達状況／母親の教育観・仕事観・子育て観／子どもの将来への期待／今、子育てで力を入れていること／母親の子育て意識／父親の家事・育児参加／子育て支援など

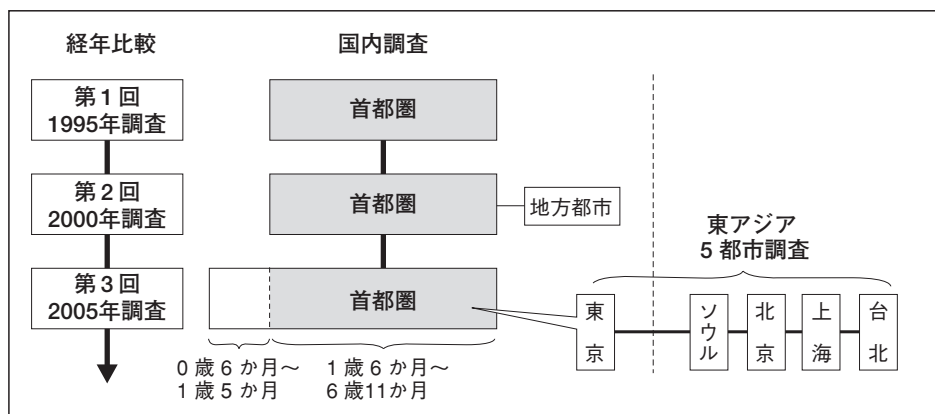
\*調査項目は経年比較が可能なように配慮したが、時代の変化に合わせて、追加・削除などの変更を行っている。

## 分析枠組みとサンプル構成

### ●分析枠組み

本報告書の分析枠組みは次のとおりである。

#### 分析枠組み



※上記「東アジア5都市調査」については、「幼児の生活アンケート・東アジア調査」速報版（2006年2月刊行予定）、報告書（2006年3月刊行予定）にて報告。

- ・経年での比較を行うために、第2回（00年調査）から地方都市の回答を分析から除外している。
- ・経年での比較を行う際は、第3回（05年調査）のうち、0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ保護者の回答を分析から除外している。
- ・第3回（05年調査）のみで分析を行う際は、すべての年齢層の乳幼児をもつ保護者の回答を分析対象に含めている（就園状況別の分析を除く）。

### ●サンプル構成

本報告書のサンプル数は、以下のとおりである。

(人)

調査	サンプル数	性別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	性別合計
95年調査	1,692	男子	—	57	226	154	182	110	90	819
		女子	—	71	233	152	206	108	103	873
00年調査	1,601	男子	—	91	246	123	128	125	130	843
		女子	—	84	235	128	98	105	108	758
05年調査	2,980	男子	161	334	374	164	162	152	143	1,490
		女子	165	326	366	176	150	174	133	1,490

※表中、95年調査、00年調査の1歳児は1歳6か月～1歳11か月を、また、05年調査の0歳児は0歳6か月～0歳11か月を示す。

※95年は2歳児・4歳児、00年は2歳児、05年は0歳児・1歳児に対して他の年齢よりも質問紙を多く配布している。

## ウェイトについて

データの精度を高め、経年での比較を可能にするため、比推定を用い、調査対象の属性別構成比を現実にあわせた。

本報告書で使用したウェイトは、調査票1枚が代表する人数、つまり、「推計人口」/「幼児の生活アンケート回答者数」を、下のように母集団を12の区分に分割して計算することにより作成されたものである（05年調査のデータについては、14区分に分割したウェイトも作成した）。

子どもの性別（2区分）×子どもの年齢別（6区分）

- ・第1回（95年調査）および第2回（00年調査）のウェイト作成にあたっては、4都県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）の国勢調査人口を利用している。第3回（05年調査）については、2003年（神奈川県、千葉県、埼玉県）および2004年（東京都）の人口推計を利用している。
- ・年齢別に区切った場合、95年調査の「1歳児」、00年調査の「1歳児」、05年調査（経年比較の際）の「1歳児」は1歳6か月～1歳11か月の幼児を指す。また、05年調査（全体）の「0歳児」は0歳6か月～0歳11か月の乳児を指す。このような場合には、「推計人口」の性別の該当年齢人口の半数を割り当てた。
- ・ウェイトを作成するにあたり、子どもの年齢および子どもの性別不詳者は「幼児の生活アンケート回答者」から除外している。結果、本報告書の分析からも除外されている。

## ●本報告書を読む際の注意点

本報告書を読む際の注意点は次のとおりである。

### 1. 比較のデータについて

本報告書の95年調査、00年調査、05年調査の比較（5年比較、10年比較）については、すべて東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の1歳6か月～6歳11か月の幼児をもつ保護者のみのデータを指している。

### 2. 就園状況と幼児の年齢について

- ・本報告書では、本調査の実施時期（3月）における幼児の月齢と就園状況にもとづき、以下のような区分を設定した。  
「0～2歳クラス児」…1歳6か月～3歳10か月の幼児→幼稚園児はほとんどいない  
「3～5歳クラス児」…3歳11か月～6歳11か月の幼児→未就園児は少ない  
\*「未就園児」は、本来クラスには入っていないが、「幼稚園児」「保育園児」と分析の年齢幅をそろえたことがわかるように、「クラス児」という表現を用いることとした。
- ・本報告書では、幼児の月齢と就園状況を考慮し、就園状況別の分析を行う際、「0～2歳クラス児」の場合には「未就園児」と「保育園児」の保護者の回答のみを、「3～5歳クラス児」の場合には「保育園児」と「幼稚園児」の保護者の回答のみを比較して分析している場合がある。

### 3. 分析の対象について

以下の項目について、父親と母親で回答傾向が異なると考えられるため、本報告書では母親の回答のみを抽出して分析している（カッコ内は調査票の問番号）。巻末に掲載した基礎集計表も同様である。

- ・子育てで力を入れていること（Q12）
- ・子どもの将来への期待（Q13-1）
- ・子どもの進学に対する期待（Q13-2）
- ・母親の就業状況および仕事に対する意識（Q14）
- ・子育て意識（Q15）
- ・現在の生活や子育ての満足度（Q16）
- ・父親の帰宅時刻（Q17）
- ・父親の育児への精神的サポートに関して思うこと（Q18）
- ・父親の育児・家事参加状況（Q19）
- ・父親の育児・家事参加に対する満足度と要望（Q20）
- ・子育て支援（Q21）
- ・幼稚園・保育園に対する要望（Q24）
- ・子育てに関する意見（Q27）

### 4. 百分比（%）およびサンプル数について

本報告書の百分比（%）は、すべてウェイトをつけて算出されている。また、サンプル数はすべてウェイトをつける前のサンプル数を表している。

### 5. 百分比（%）について

百分比（%）は有効回収数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、各々の項目の数値の和と合計を示す数値とが一致しない場合がある。

### 6. 報告書の数値について

本報告書では、95年調査および00年調査の集計結果を算出する際に、新たに作成したウェイトを使用している。したがって、当センターの前身であるベネッセ教育研究所刊の『第1回幼児の生活アンケート報告書』（研究所報vol.8 1996.4）、および『第2回幼児の生活アンケート報告書』（研究所報vol.22 2000.9）とは数値が異なる。

## 基本属性

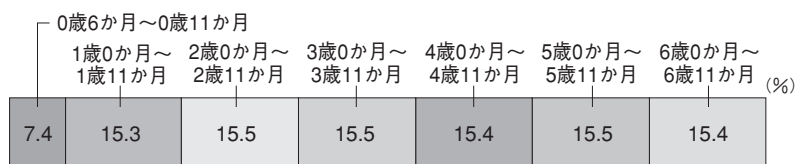
ここで説明する基本属性は、05年調査の対象である0歳6か月～6歳就学前の乳幼児をもつ保護者2,980人を母数とし、かつウェイトづけて算出した数値である。

### A 子どもの属性

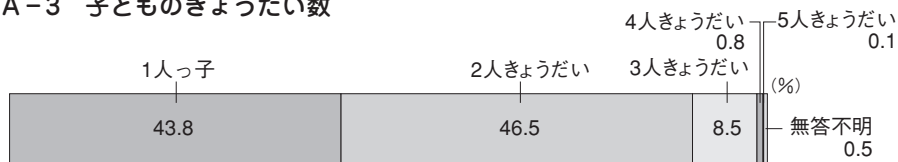
■図A-1 子どもの性別



■図A-2 子どもの年齢



■図A-3 子どものきょうだい数



■図A-4 子どもの出生順位



■図A-5 子どもの就園状況

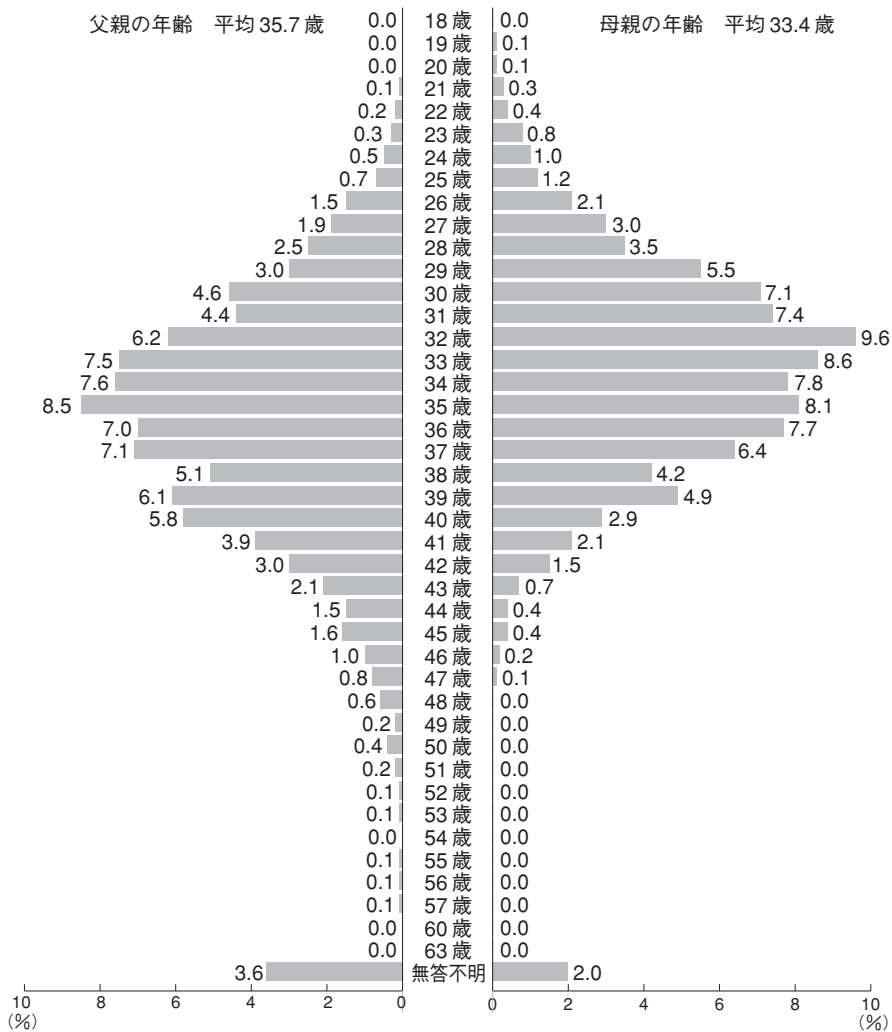


## B 保護者の属性

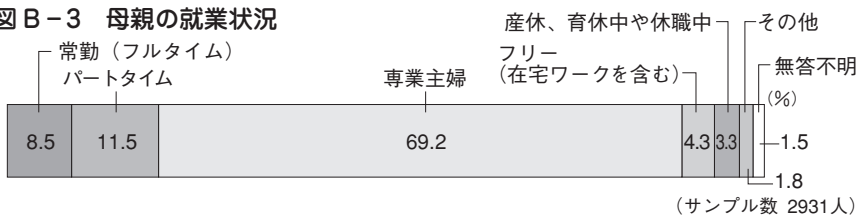
■図 B-1 回答者と子どもとの関係



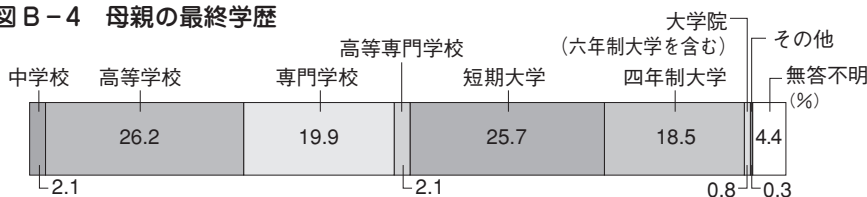
■図 B-2 父親・母親の年齢



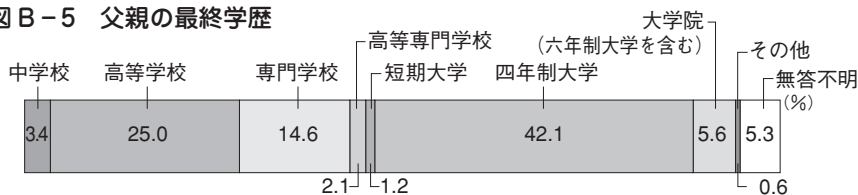
■図 B-3 母親の就業状況



■図 B-4 母親の最終学歴

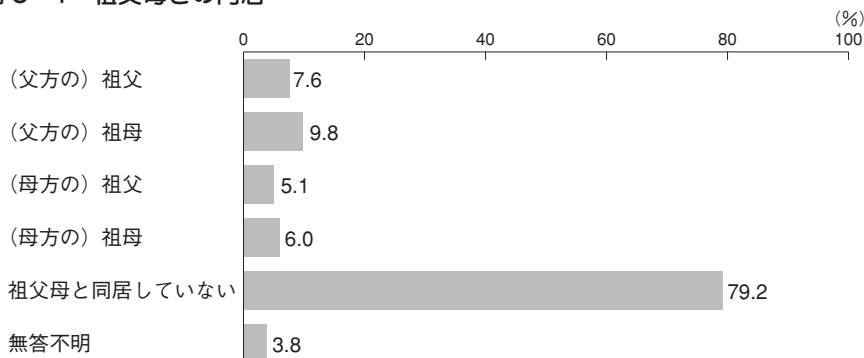


■図 B-5 父親の最終学歴



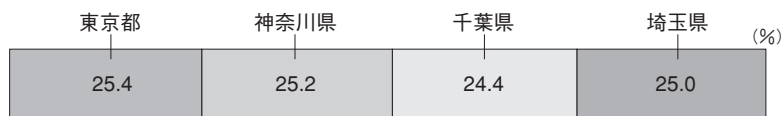
## C その他

■図 C-1 祖父母との同居



注) 複数回答。

■図 C-2 居住地域



■図 C-3 昨年の世帯年収

